

2025年2月28日 Vol.239

2月最後の下振れの中で

令和7年の立会日数243日のうち37日が経過しようとする中で、これまで堅調な推移を辿ってきた米国株の調整を反映し、半導体関連など指数をリードしてきた値嵩銘柄を中心に全体相場は大きく下振れの展開。日経平均は2月末に至って、昨年9月以来の3万7000円割れ場面を迎えています。梅の花が咲き誇る季節となり、春の足音が聞こえる中で来週からは3月相場に突入しますが、こうした株式相場の下振れの中で2月の5銘柄に続き3月も12の銘柄がIPOを予定。この中にはENEOSホールディングス(5020)の子会社JX金属(5016・プライム)や東証プロマーケットから福証Qボードに鞍替えとなるパパネッツ(9388)といった厳密に言うとIPOとは言いにくい銘柄もありますが、それぞれにユニークな内容を持つ企業が目白押しとなっています。

2月の5銘柄(バルコス7790、技術承継機構319A、フライヤー323A、ブッキングリゾート324A、TENTIAL325A)のうち技術承継機構が公開価格2000円に対して初値2700円でスタートし、その後27日に5580円の高値まで2倍以上に株価が上昇するなど人気を集めています。一方で名証ネクストに上場したバルコスが不人気なほかフライヤーも初値こそ公開価格を73%上回りましたが、その後は下値模索の展開。リゾートグランピングなどの集客支援事業、直営宿泊事業で売上、利益の急拡大を見せるブッキングリゾートが公開価格1240円から初値1550円で寄り付き、その後2479円の高値をつけるなど概ね堅調な推移。全体相場の下押しの中で本日公開された健康衣料ブランド企業TENTIALの初値は公開価格2000円を30%上回る2600円だったが、その後は下振れの展開。シカゴカプスの今永選手は大谷選手との開幕戦での対決で話題ですが、その今永選手の愛用リカバリーウェア「BAKUNE」(コンデショニングブランド)へのブランド投資を積極化させてのIPO。同社の業績は前1月期推定売上高120億円、営業利益13.2億円に対し、上場を機に更なる認知度向上を図り今1月期売上高170億円、営業利益16.2億円と急拡大を計画しており、その内容とともに株価面でも注目されます。

2月の5銘柄に続き3月は18日の採用マーケティング事業を展開するTalentX(330A)から31日の越境EC事業を展開するジグザグ(340A)までの12銘柄(うち9銘柄がグロース市場銘柄)が登場します。グロース銘柄の中では大手通信キャリア向けに事業展開する高効率で高収益のモバイルIoT支援事業のミーク(332A)、大阪を拠点にデジタル障害者手帳「ミライロID」を4000余りの事業所に導入してもらいながら着実に成長を図るミライロ(335A)、日本を含む世界26か国で自動運転実現に貢献するHD(High Definition)マップ(高精度3次元地図データ)の活用を図るデータビジネスを展開するダイナミックマッププラットフォーム(336A)が注目されます。全体株式相場の波乱の中で不透明感漂うIPO市場ではありますが、成長意欲旺盛な個別銘柄への関心がますます高まることを祈願しております。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)